



ウッディワールドのぞき活用術/ 『工務店さんのお仕事をラクにする!』

のぞきの
取り組み
紹介!

■ 住まい見守り隊 ②

住まいの見守り隊(以下、見守り隊)は、ウッディワールドのぞき工務部が行う「新築住宅の定期点検サービス」です。今回は、「見守り隊は工務店さんと一緒に作っていくもの」と語る荒木部長の真意を掘り下げて伺いました。

「見守り隊は完成されたパッケージではない」

これは当初からの考えなんですけど、見守り隊というのはのぞきと工務店さんが一緒に作っていくものであって、完成されたパッケージではありません。

「工務店とOB施主の関係性を繋いでいくため」に、定期点検を代行するのが見守り隊ですから、その繋がったきっかけをどう生かすかを考えるのは工務店さん側です。もちろんのぞきも一緒に考えますが、「OB施主のアフターフォローを丸投げしたい」って希望の方には合わない事業だと思います。ただの点検代行の業者ではなく、工務店さんのお仕事が続いていくようにするための事業なんです。

例えば、点検回数や時期を工務店さんごとに設定できるようにしているのも、こういったタイミングでOB施主さんとコンタクトを取っていくのが良いか、各社で考え方が違うからです。その地域に根ざしているのが工務店さんの強みですから、風邪を引いた時のかかりつけ医のように、地域の人から頼られる存在であるのが良いと考えています。

そのために見守り隊の方でも、常に改善の取り組みを続けています。点検員とはヒアリングの場を定期的に設けて、意見を聞いたり、問題が起きていないかを常に確認しています。また点検員の研修も行っていて、外壁のメンテナンスやクロスについてなど、皆で勉強を行っています。点検に行くときOB施主さんから「どうしてクロスが切れているんですか」などと聞かれることもありますから、きちんと答えられるように、不具合の理屈を理解することが大切です。

またメンテナンス以上の付加価値を提供できるように、色々な業者さんと連携もしています。現在はより良い暮らしのお手伝いのために、エアコン清掃・整理収納アドバイザーの割引サービス券を点検時にお渡ししています。

これからの課題として資材メーカーとの連携も進行中でして、点検時にリフォーム商材のオススメや、介護福祉的なご提案ができればと考えています。チラシやQRコードで情報をお渡しして、リフォームの意識が高まれば良いなど。多くのメーカーと繋がりを持っている建材流通店の強みを生かして、これからもサービスを向上させていく予定です。



千合

荒木

「住まいの見守り隊」 新築住宅引き渡し後の 定期点検事業



エリア:岡山県内のみ
点検回数・時期:任意に設定可能
金額:点検回数に応じて変動(お問合せください)
問い合わせ:WWN工務部 荒木(086-959-1112)



研修の様子

年末年始休暇のご案内

12月26日(金) 通常営業
27日(土) 社内行事 大掃除
28日(日)
〃 冬期休暇
令和8年1月4日(日)
1月5日(月) 通常営業



● 令和7年度大工担い手育成事業

【岡山住まい夢ネット】全国若手大工集合研修レポート 「防災対応力と技術を磨く!」

「全国住宅産業地域活性化協議会」の担い手育成事業において、全体集合研修が、2025年11月6日に岡山で開催されました。

現在、建設業界では大工の高齢化と減少が深刻な課題です。地域の中小工務店が個社で教育を行うには限界がある中、本事業は、国土交通省の補助を受け、地域団体が中心となり若手育成体制を整備することを目的としています。今年は特に、補助事業が「住宅・建築物防災力緊急促進事業」となったことを受け、防災研修がカリキュラムに追加されました。



岡山、鹿児島、長崎など全国7地域から、20代を中心とした若手大工35名が一堂に会し、木造応急仮設住宅の建て方研修を実施。ベテラン棟梁の指導のもと、35平方メートルほどの平屋住宅2棟を建設し、建物の重要な構造である柱や梁・桁などの骨組みを、迅速かつ正確に行う技術を実践形式で学びました。皆で力を合わせ5時間半ほどで完成させました。参加した若手大工は、災害時に早期供給が求められる仮設住宅の基本知識を身につけただけでなく、日頃交流の少ない他の地域の若手仲間と親睦を深め、将来に繋がる大きな財産を得ました。

岡山住まい夢ネットは、今後もこのような実践的な研修を通じて、地域社会に安心して優良な住まいを提供できる、質の高い担い手の育成に注力してまいります。

詳しくは★営業企画部 小野まで TEL:086-941-8806

● 工務店カレッジ



11月11日、2回目の「低コスト・高耐震な賢い設計!研修」を開催しました。「構造計画ルールによる設計研修」をテーマに開催。参加者が自社で手がけた図面を準備し、講師のM's構造設計 佐藤氏に構造区画・柱の配置・基礎区画について考え方や気になる点について解説をしていただいた。構造計画ルールを基本とし、無駄な耐力壁を減らすことで基礎の立上りを減らすなど、コストダウンに繋がる具体的手法についてもアドバイスをいただいた。

参加者は自社が準備した事例図面をもとにアドバイスをもらうことで、次回の物件から直ぐにでも実践できる研修会となった。また、普段見ることの出来ない他社の図面を見ることができ、客観的な視点で構造計画ルールについて考えることの出来る時間となった。次回もケーススタディを実施予定。



詳しくは★営業企画部 佐伯まで TEL:086-941-8806

あちこちのざき（実績紹介） | 一般家庭から有名建築まで、建材で支えてきた岡山の街づくり

■材木屋の自宅の使い方—その1

今日から何回かに分けて拙宅の紹介をします。

今から60年前に材木、銘木の展示場のつもりで建築したものです。

まずは玄関から



玄関は家の顔と言われています。

そこで重要なのは式台、下駄箱、玄関床なのですが、一番よく使われる銘木はケヤキですが、ここではマツを使っています。



よくケヤキとマツとどちらが良いか、と聞かれることがあります。

ようは好みなので、自由にされれば良いのです。

ただどちらが揃えにくいのか、と聞かれるとマツでしょう。

それも**肥松**の無傷無欠点のもの。

ケヤキのほうが大径木の良材が取りやすいのです。

もっとも**玉杓**となると話は別ですが。

マツの**肥松**は元株に近いところでないと取れません。

— 材木屋が見た木材と建物 —



(株)ウディワールドのざき
会長 野崎 和良



玄関を入った正面の床は**肥松**です。



なかなかこれだけ脂が乗った**肥松**は少ないのですが、実はこれは材木屋ならではの使い方。この上の置物をとると



こんな大節が出てきます。

一般の方にはお勧めできませんが、これで納得していただけるのなら、それもありがたという使い方でした。

※**肥松**（コエマツ）：樹齢数百年の老松の、特に樹脂分を多く含んだ中心部分の木材
※**玉杓**（タマモク）：木材の表面に現れる、玉が散らばったような同心円状の大きな模様
※**入り皮**（イリカワ）：木が生きている時に樹皮に傷が付いた部分が成長せずに皮ごと巻き込まれてしまった部分のこと
※**脂ツボ**（ヤニツボ）：松脂（まつやに）のような樹脂成分が、木材の内部に集まってできたもの